

万祥山大通寺遍照心院は八条櫛笥くしげにあり、此地は源經基公みなもとのかねもとこうの殿舎にして、天徳五年に薨じ給ふ後、此所に靈廟を建、六孫王權現ろくそんわうこんげんと崇奉る。其後鎌倉右大臣実朝公かまくらうだいじんさねともこうの後室三位禪尼大檀越しんくうりつしとなり、真空律師を請じて開山とし、戒律三論真言等兼学の梵刹ぼんしやくとなりにけり。

仏殿〔本尊阿弥陀仏は運慶うんけいの作なり〕本地堂ほんちだう〔本尊不動明王は興教大師こうけうだいしの作なり〕六孫王社祭所は經基公かねもとの神靈なり、源氏げんじの祖神にして御当家の造営なり。〔神前には諸侯より奉納の石灯籠数々あり、祭は九月十一日〕神廟〔本堂の後にあり〕貞純親王社〔本社ほんしの巽ささぎにあり〕

神龍池しんりゅうち〔神前の池をいふ、例祭には放生会あり〕辨財天社べんざいてん〔長壹尺五寸余、弘法こうぼうの作なり〕誕生水みなもとのまんちゆう〔源満仲公誕生の時此水を汲て産湯とす、洛陽の名水七井の其一つなり〕阿弥陀仏〔立像長二尺五寸安阿弥あんあみの作にして、親鸞聖人しんらんの持尊なり。初は山科本願寺やましなに安置する所、佐々木定頼動乱の時当寺に持来るといふ。今門内の宝蔵にあり、二月十五日開帳なり〕

宝冠釈迦仏〔方丈に安ず、定朝ちやうてうの作なり〕実朝公影さねともこう〔方丈にあり〕方丈の庭はうじやう〔廬山ろざんの景を模して庭中絶妙なり〕

満仲公誕生地まんちゆうこうたんじやうち〔八条通大宮おほみやの西にあり、今六孫王ろくそんわうの御旅所とす〕歡喜森くわんきのもり〔七条朱雀しちじやくの東にあり、此所は歡喜寿院くわんきじゆの旧跡なり〕福大明神森みふだいめいじん〔壬生通みぶの東楊梅やまももの北にあり、由来詳ならず〕人丸塚じんぐわんづか〔坊城通高辻ばうじやうたかつじの南にあり、由縁詳ならず〕